

専門ゼミ/専門科目

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
経済政策論ゼミ		市場社会の経済的分析	高橋 真悟	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	行動経済学・意思決定の方法・説得力のある文章		
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力を総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	前期は、経済（主に行動経済学）の基礎知識の習得と研究・発表手法を身につけることを目的として、テキストの精読を中心に進めていきます。後期は、各自の卒業論文完成を最大の目的として、個々のテーマ設定と用いる資料、アウトライン、最終的な結論の各段階において、お互いにコメントし合い、より良い論文内容に仕上げることを目指します。				
到達目標	前期は、経済的分析のための基礎知識の習得と研究手法および発表方法を身につけることが到達目標です。後期は、資料やデータを用いて各自の卒業論文を執筆し、根拠に基づいた論文を完成させることを最終的な到達目標とします。				
講義内容	本ゼミでは現代の市場社会の特徴について、経済的側面から分析を行います。具体的には、心理学と経済学の融合分野である行動経済学の考え方を身につけて、現代の経済的諸問題を議論していきます。また、卒業論文の執筆に必要な文章表現能力も合わせて磨いていきます。とくに、説得力のあるアウトライン（序論・本論・結論）の作成に十分な時間をかけ、個別指導も行っていきます。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期の授業の進め方・諸連絡など		
	第2講	テキスト輪読と議論（1）	テキストの輪読と議論：行動経済学の考え方		
	第3講	テキスト輪読と議論（2）	テキストの輪読と議論：人間らしい心の動き		
	第4講	テキスト輪読と議論（3）	テキストの輪読と議論：ヒューリスティックとは		
	第5講	テキスト輪読と議論（4）	テキストの輪読と議論：プラシーボ効果ほか		
	第6講	テキスト輪読と議論（5）	テキストの輪読と議論：意思決定の仕組み		
	第7講	卒業論文構想報告会（1）	卒業論文の仮テーマの設定		
	第8講	テキスト輪読と議論（6）	テキストの輪読と議論：お金の使い方ほか		
	第9講	テキスト輪読と議論（7）	テキストの輪読と議論：行動経済学の活用事例		
	第10講	テキスト輪読と議論（8）	テキストの輪読と議論：マーケティング成功事例		
	第11講	テキスト輪読と議論（9）	テキストの輪読と議論：ナッジ理論とは		
	第12講	テキスト輪読と議論（10）	テキストの輪読と議論：なりたい自分になるために		
	第13講	卒業論文の構想	卒業論文のテーマ決めと参考文献の調査		
	第14講	卒業論文構想報告会（2）	卒業論文のテーマと参考文献の決定		
第15講	前期まとめ	卒業論文の進め方・夏休みの課題など			

	第16講	後期オリエンテーション	後期の授業の進め方・諸連絡など
	第17講	卒業論文の作成指導（1）	アウトラインの構想：これまでの復習
	第18講	卒業論文の作成指導（2）	アウトラインの構想：参考文献の確認
	第19講	卒業論文の作成指導（3）	アウトラインの構想：参考資料の追加
	第20講	卒業論文の途中報告（1）	アウトラインの発表：問題提起の検討
	第21講	卒業論文の途中報告（2）	アウトラインの発表：序論の検討
	第22講	卒業論文の途中報告（3）	アウトラインの発表：仮の結論の検討
	第23講	卒業論文の途中報告（4）	アウトラインの発表：全体の検討
	第24講	卒業論文の途中報告（5）	アウトラインの発表：改善点の確認
	第25講	卒業論文の執筆指導（1）	論文の修正と個別指導：問題提起の確認
	第26講	卒業論文の執筆指導（2）	論文の修正と個別指導：序論の確認
	第27講	卒業論文の執筆指導（3）	論文の修正と個別指導：結論の確認
	第28講	卒業論文の執筆指導（4）	論文の修正と個別指導：結論の根拠の確認
	第29講	卒業論文の執筆指導（5）	論文の修正と個別指導：形式面の確認
	第30講	まとめ	より良い論文に仕上げるために・これまでの復習
指導方法	前期はテキストの輪読・議論・解説を行い、後期は各自の卒業論文の報告・議論・アドバイスを中心に進めていきます。		
事前学習	前期はテキストの該当箇所を通読し、どこがわからないか、不明点や疑問に思ったことを把握しておいてください。後期は自分の研究に必要な資料調査をするようにしてください（1時間程度）。		
事後学習	前期は教員からのコメントを活かしたレジュメづくりとテキストの読み返しをし、後期は教員からのコメントを活かした卒業論文の執筆を行ってください（1時間半程度）。		
成績評価方法	卒業論文 50%、平常点（報告・議論） 50%		
テキスト	阿部誠『サクッとわかるビジネス教養 行動経済学』新星出版社、2021年。		
参考書籍	特になし。		
特記事項			

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
鉄道史ゼミ		鉄道や交通を歴史学的アプローチから研究する		大野 絢也	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	近代史、現代史、経済史、社会史、地域史			
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	<p>鉄道を中心とした交通に関する過去の文献・史料を引用し、様々な因果関係や系譜を紐解いていく歴史的なアプローチで、卒業論文の作成指導を行う。対象の時代や地域は、日本の国内外問わずいつでもどこでも構わない。普段乗り慣れている電車やバスなどの交通機関は、いつどのような経緯で建設され、運営されてきたのか、ゼミで研究する。</p>					
到達目標	<p>主に次の点について理解し、自らの具体的な考えを論理的に説明できるようになる。第1に、交通体系の発展が何に起因し、いかなる構造的な特質を持っているのか。第2に過去の系譜を踏まえ、今後どのような展開をたどると考えられるのか。第3に、鉄道や交通に関する文献や史料を読み、どういった意義や限界を有しているのか。現代にまで至る交通体系の系譜を、歴史的な背景を含めて複眼的な視野から理解できるようになる事を心掛けること。</p>					
講義内容	<p>前期は主に鉄道を中心とした交通の歴史的事象に関する文献や史料の輪読を行い、個別で発表した後に討論する。それに基づいて自らの興味や関心に基づいた研究テーマを設定する。後期は史料(新聞や一次史料など)や先行研究(書籍や論文)を収集後、研究内容の発表・討論と卒業論文の執筆指導を行う。</p>					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	前期オリエンテーション	前期のゼミの進め方や諸連絡など			
	第2講	導入(1)	鉄道史・交通史研究の意義とは？			
	第3講	導入(2)	鉄道史・交通史研究の学術的系譜			
	第4講	導入(3)	鉄道史・交通史研究における課題と展望			
	第5講	文献講読と討論(1)	戦後日本の鉄道史・交通史			
	第6講	文献講読と討論(2)	高度経済成長と鉄道建設			
	第7講	史料講読と討論(1)	鉄道建設反対運動の発生			
	第8講	史料講読と討論(2)	鉄道建設反対運動に対する国鉄の対応 鉄道建設反対運動の原因、鉄道建設反対運動の背景			
	第9講	史料講読と討論(3)	鉄道建設反対運動に関する地域社会の反応			
	第10講	史料講読と討論(4)	鉄道建設反対運動の原因と背景			
	第11講	史料講読と討論(5)	鉄道建設反対運動の事例分析			
	第12講	史料調査の方法	史料へのアクセス方法、研究機関やデータベースの紹介			
	第13講	先行研究の収集	先行研究の収集と問いの立て方			
	第14講	研究テーマの設定	研究テーマの設定			
第15講	前期のまとめ	前期の内容を踏まえた討論				

	第16講	後期オリエンテーション	後期のゼミの進め方や諸連絡など
	第17講	先行研究の整理	先行研究の整理と問いの見直し
	第18講	史料調査結果の発表(1)	史料調査の結果報告
	第19講	史料調査結果の発表(2)	収集史料の整理
	第20講	史料調査結果の発表(3)	収集史料の分析
	第21講	卒業論文の作成経過報告(1)	全体構成の検討
	第22講	卒業論文の作成経過報告(2)	リサーチクエスチョン
	第23講	卒業論文の作成経過報告(3)	序論の検討
	第24講	卒業論文の作成経過報告(4)	結論の検討
	第25講	卒業論文の作成経過報告(5)	発表と討論およびリプライ
	第26講	卒業論文の執筆指導(1)	問題提起の再考
	第27講	卒業論文の執筆指導(2)	序論と結論の再考
	第28講	卒業論文の執筆指導(3)	形式面の確認と調整
	第29講	後期のまとめ	後期の内容を踏まえた討論
	第30講	卒業論文発表会	各々の卒業論文に対する講評
指導方法	前期は文献や史料の輪読と発表・討論、および史料収集に向けた調査・整理方法を紹介する。必要に応じて、本学の図書館だけでなく、外部機関にも出向いて調査してもらう。後期は研究テーマの発表・討論と卒業論文の執筆指導を行う。		
事前学習	発表準備や卒業論文の執筆に向けた作業を計画的に行うこと。特に文献や史料の収集は、歴史学的手法をとるための重要な作業である。3時間程度の学習時間が目安である。		
事後学習	ゼミ中に教員やゼミ生から指摘を受けた内容や、討論した内容を踏まえて再考し、自らの研究内容に反映すること。1時間程度の学習時間が目安である。		
成績評価方法	平常点(調査状況・発表・討論時の発言)：50%、卒業論文：50%として、総合的に評価する。		
テキスト	特に1冊を指定する事はしない。必要な資料については、各回で随時配布する。		
参考書籍	宮崎省吾『いま、「公共性」を撃つ：「ドキュメント」横浜新貨物線反対運動』創土社、2005年。埼玉大学共生社会研究センター監修『横浜新貨物線反対運動資料』すいれん舎、2008年。		
特記事項			

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位
交通情報論ゼミ		コンピュータを通して、交通を理解する		小宮 全	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	データ解析、交通と情報、プログラミング			
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前を受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	本講義の目的は2つある。1つ目は、情報と交通に関する研究を通して、世界で自分だけが知っている事実を手に入れること、2つ目は、その事実を手に入れる（作り出す）ための労力がどの程度か経験する事によって、身を持って知る事である。					
到達目標	論文を書き上げることである。ただし、自分だけが知っていることが書かれている事が必須条件である。自分だけが知っている事実は、どんなに小さな事でも良いし、自分だけが知っている期間が短期間でも良い。					
講義内容	本講義と並行して、情報科学概論・プログラミング入門を受講し、コンピュータやプログラミングに関する基礎的な知識を身につけること。交通と情報に関する論文を読み、論文の読み込みから自分のテーマを決定し、実験と執筆を進める。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	ゼミの進め方・研究計画書・論文執筆について理解する。			
	第2講	論文とレポートの違い（1）	自由研究論文を題材に、論文とレポートの違いを理解する。研究計画書と論文アウトラインの違いを理解する。			
	第3講	論文とレポートの違い（2）	自由研究論文を研究計画書・論文アウトラインに落とし込む。			
	第4講	論文とレポートの違い（3）	出版されている論文を論文アウトラインに落とし込む。			
	第5講	データの分析（1）	インターネット上で入手することが出来るデータを知る。			
	第6講	データの分析（2）	入手したデータを分析する。			
	第7講	データの分析（3）	出版されている論文のデータを再現する。			
	第8講	データの分析（4）	出版されている論文のデータを再現する。			
	第9講	論文の検索方法（1）	学術論文の種類（原著、研究ノート、総説等）を理解する。			
	第10講	論文の検索方法（2）	特定のテーマに対して実際に検索し、網羅性を確認する。			
	第11講	論文の読み方	自分で見つけた論文を論文アウトラインに落とし込む。			
	第12講	研究テーマの見つけ方（1）	興味ある事柄（テーマ）を決め、教科書等で調べる。			
	第13講	研究テーマの見つけ方（2）	テーマに対して、先行研究を検索する。			
	第14講	研究計画書の執筆指導(1)	研究計画書の作成方法を理解する。			
第15講	研究計画書の執筆指導(2)	研究計画書の仮提出をする。				

	第16講	研究計画書の執筆指導(3)	研究計画書を完成させる。
	第17講	研究の個別指導(1)	研究計画の第1段階を実行する。
	第18講	研究の個別指導(2)	研究計画の第2段階を実行する。
	第19講	研究の個別指導(3)	研究計画の第3段階を実行する。
	第20講	研究の個別指導(4)	研究計画の第4段階を実行する。
	第21講	研究の個別指導(5)	研究計画の第5段階を実行する。アウトラインの執筆をする。
	第22講	卒業論文アウトライン作成指導(1)	ここまでの研究結果を論文にするためにアウトラインを作成する。アウトラインの仮提出をする。
	第23講	追加研究指導(1)	アウトラインを作成することによって、研究の不足部分を明らかにし、追加研究を実施する。
	第24講	追加研究指導(2)	追加研究を実施する。
	第25講	追加研究指導(3)	追加研究を実施し、それらを組み込んだアウトラインを作成する。
	第26講	卒業論文アウトライン作成指導(2)	アウトラインの本提出をする(アウトラインをゼミ内で共有する)。
	第27講	卒業論文執筆(1)	アウトラインに沿って、論文を執筆する。
	第28講	卒業論文執筆(2)	論文仮提出をする(本提出論文をゼミ内で共有する)。
	第29講	卒業論文執筆(3)	仮提出論文の修正をする。
	第30講	卒業論文執筆(4)	論文本提出をする(本提出論文をゼミ内で共有する)。
指導方法	前期は、レポートと論文の違いについて理解し、論文を執筆するための準備を行う。後期は研究の設計方法や、実験方法、執筆方法を個別に指導する。		
事前学習	毎回出される課題とは別に、事前に準備すべきことを指示する。それらが学習済みであることを前提に授業を進める。学習時間の目安は1時間程度である。		
事後学習	毎回出される課題を確実に実施すること。課題が完成していることを前提に授業をすすめる。学習時間の目安は2時間程度である。		
成績評価方法	第16講で研究計画書を提出する。研究計画書ができていない場合は、後期の授業に進むことはできない。第26講でアウトラインの提出をする。アウトラインの提出ができない場合は、論文仮提出・本提出は受理しない。本提出後も訂正が必要になる場合もある。卒業論文 50%、平常点(報告・議論・授業内外課題) 50%		
テキスト	必要なテキストを授業内で指定する		
参考書籍	必要なテキストを授業内で紹介する		
特記事項	ゼミ生は、前期の情報科学概論を受講すること。		

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
交通倫理学ゼミ		「交通」から現代社会を考え、多角的な視野と思考力を鍛える		田島 樹里奈	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	交通、倫理学、卒業論文、思考力、多角的な視野			
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	本講義の目的は、交通に関することを中心に、社会の様々な問題を倫理的な視点から考えることで、物事を多角的に考える力を養うことである。そもそも『交通』とはどのような存在か、これを常に問い直しながら、前期は、倫理学に関する基本的な枠組みや社会的規範との関係を学び、具体的にどのような問題が社会の中で倫理学の問題となり得るかを学ぶ。後期は、各自の問題意識を学問的に分析するための方法、資料の使い方、説得的な文章の書き方など、論文の作法を再確認しながら、お互いの論文構成や内容について議論し、より良い卒業論文の執筆・完成を目指す。					
到達目標	本講義では、交通倫理学（あるいは交通と倫理学）について、単なる知識を身につけるだけでなく、複雑な現代を生きる1人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持つようになることを最終的な目標としている。そのため前期は、倫理学の基本的な知識を学びながら、交通倫理学に関する多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。またそれらを自らの頭で関連づけながら考える力と、言語化する能力を鍛える。後期は、読解力と分析力をさらに高めながら、自分の考えを論理的に言語化する能力を磨き、卒業論文を完成させる。					
講義内容	上記を達成させるために、前期は、①教員による講義からスタートし、その内容に関するディスカッションを行う。②徐々に読解力・要約力の強化のため、適宜テーマごとに学生による輪読・発表を行う。③考えること・書くことを習慣づけるため、毎回簡単なコメントシートを提出してもらう。後期は、各自の卒業論文の執筆と完成に向けて、[執筆→発表→質疑応答→改善のための方策案を互いに出し合う]を繰り返す。ゼミ生同士で互いに助け合いながら、主体的に考える力・聞く力・俯瞰して見る力・言語化する力・実行する力を磨いていながら卒業論文の完成を目指す。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	前期オリエンテーション	・なぜ「交通」に倫理学が必要なのか ・道徳と倫理学の違いとは			
	第2講	交通倫理学入門①	・人を助けるために嘘をつくことは許されるか ・「幸福」は計算できるか			
	第3講	交通倫理学入門②	・功利主義：「最大多数の最大幸福」とは ・10人の乗客を助けるために1人の乗客を犠牲にして良いか			
	第4講	交通倫理学入門③	・時代の変化と価値の変化 ・「安全」概念の変容			
	第5講	都市文化と交通①	・都市デザインと文化 ・「公共交通機関」の意味を考える			
	第6講	都市文化と交通②	・安全対策の安全性 ・都市とセキュリティの問題			
	第7講	技術と倫理①	・「技術」とは何か：技術の進歩と人々の幸福 ・AIと人間：責任の所在			
	第8講	技術と倫理②	・安全と責任 ・無人機の活用と倫理的課題			
	第9講	卒業論文・構想発表会	各自の問題意識に基づく仮テーマの設定			
	第10講	人権と多様性①	・ジェンダーとは（LGBTQIA+を考える） ・鉄道業界における諸問題			
	第11講	人権と多様性②	・グローバル化・多様化した社会で働くこと ・異文化理解とは			
	第12講	先行研究の選び方	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
	第13講	先行研究の扱い方	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
	第14講	先行研究の分析方法	各自の論文テーマに関連する先行研究（論文など）を要約し、それに対する考察を発表・提出する。			
第15講	前期のまとめ	卒業論文のテーマ・目次（仮）・文献リストの提出				

	第16講	後期オリエンテーション	進捗状況の報告、今後の進め方
	第17講	卒業論文の執筆に向けて	論文作法：論文の構成と各部分の役割（復習）
	第18講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習①）：参考文献の使用法と表記法
	第19講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習②）：序論の検討・結論の見通し
	第20講	卒業論文の執筆指導	論文作法（演習③）：各章の役割、論文構成の再検討
	第21講	卒業論文の中間発表①	グループA（アウトライン・参考文献の検討）
	第22講	卒業論文の中間発表②	グループB（アウトライン・参考文献の検討）
	第23講	卒業論文の中間発表③	グループC（アウトライン・参考文献の検討）
	第24講	卒業論文の中間発表④	グループD（アウトライン・参考文献の検討）
	第25講	論文作法演習発表	序論・目次・文献リストの発表・提出
	第26講	卒業論文の執筆指導	個別指導(1)：先行研究の検討・分析方法の検討
	第27講	卒業論文の執筆指導	個別指導(2)：論証の仕方・妥当性
	第28講	卒業論文の執筆指導	個別指導(3)：序論と結論、全体の整合性
	第29講	卒業論文の執筆指導	個別指導(4)：結論と今後の課題
	第30講	後期のまとめ	卒業論文の提出・総括
指導方法	前期は、①教員による講義とその内容に関するディスカッションを行う。②情報収集力・読解力・要約力等の強化のため、適宜、テキストの輪読と発表を行う。③考えること・書くことを習慣づけるため、毎回簡単なコメントシートを提出してもらう。後期は、各自の卒業論文の執筆と完成に向けて、発表と議論を繰り返し、書くこと・考えること・論理的に文章化することに焦点を当てる。		
事前学習	前期は、「考えること」「言語化すること」に慣れるため、事前に簡単なコメントを提出してもらう。また発表がある場合は、情報収集やテキスト読解など準備が必要になる。後期は、発表準備や、発表者の内容に関する予習が必要。1時間～1時間半程度の学習時間が目安。		
事後学習	毎回、簡単なコメントシートを提出。「書く」という“身体作業”を続けることで、徐々に言語化することに慣れ、自分自身の考えを知る機会になる。良いことを書こうと思わなくて良いので、「なぜ自分はそう考えるのか」を考えながら書いて欲しい。1時間～1時間半程度の学習時間が目安。		
成績評価方法	平常点（コメントシート・発表・議論）：50% 卒業論文：50%		
テキスト	適宜、教員が資料を配布する		
参考書籍	適宜、授業内で紹介する		
特記事項	お互いを尊重し、思いやりと素直な心を大切にしながら切磋琢磨して欲しいです。学生の理解度や状況に応じて、内容や順番の一部に変更が生じる場合があります。		



科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
交通人間学ゼミ		人間の観点から交通を研究する	佐古 仁志	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	交通事故、ヒューマンエラー、旅、観光、経験		
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	本ゼミの目的は、交通に関するものごとを人間の視点から研究することにあります。具体的には、事故につながる思い違いや確認不足といったヒューマンエラーなどに関する心理学的研究（知覚・認知の研究）と旅が私たちの経験をどのように変えるのかのような人生に関わる研究を通じて論文の作成を行います。				
到達目標	ものごとを理解するための科学的な視点を身につけ、それを旅や観光を含む広い意味での交通に関わるできごとに利用できるようになることを目指します。具体的には、問題の発見、仮説の形成、検証、仮説の修正・再形成という科学の方法を、様々な場面への応用をつうじて身につけます。				
講義内容	前期は論文の書き方の指導および論文をきちんと理解するために交通心理学ならびに旅に関わるテキストを輪読し、情報・資料を収集することで書評の作成を目指します。後期は作成した書評の発表およびそこでの批判を踏まえつつ、さらなる情報・資料収集を行うことで、卒業論文を作成します。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期のテキストの選定ならびに成績評価など授業の説明		
	第2講	論文の書き方について	感想文と論文の違い、論文の書き方等についての説明		
	第3講	論文の検索と情報の収集	論文の検索及び自分の関心のあるテーマの資料の収集の説明		
	第4講	文献輪読と議論(1)	決定したテキストの輪読とレジユメの作成について		
	第5講	文献輪読と議論(2)	決定したテキストの輪読と問題の立て方について		
	第6講	文献輪読と議論(3)	決定したテキストの輪読と質問の仕方について		
	第7講	文献輪読と議論(4)	決定したテキストの輪読と批判の仕方について		
	第8講	文献輪読と議論(5)	決定したテキストの輪読と情報収集について		
	第9講	文献輪読と議論(6)	決定したテキストの輪読と参考文献について		
	第10講	文献輪読と議論(7)	決定したテキストの輪読と引用の仕方について		
	第11講	文献輪読と議論(8)	決定したテキストの輪読とテーマの選定について		
	第12講	書評作成(1)	卒業論文のテーマの決定と書評の書き方の説明(1)		
	第13講	書評作成(2)	書評の書き方の説明(2)と書評の本の選別のための情報収集		
	第14講	書評作成(3)	書評作成のための作業		
第15講	書評作成(4)	卒業論文の進め方と夏休みの課題など			

	第16講	後期オリエンテーション	後期の授業ならびに卒業論文の進め方について
	第17講	書評発表(1)	自分の書評を発表と他人の書評の前半
	第18講	書評発表(2)	自分の書評を発表と他人の書評の後半
	第19講	論文紹介前半(1)	論文の収集と紹介とこれまでの復習
	第20講	論文紹介前半(2)	論文の収集と紹介と序論について
	第21講	論文紹介前半(3)	論文の収集と紹介と結論について
	第22講	論文紹介前半(4)	論文の収集と紹介と中間発表の準備
	第23講	中間発表(1)	卒業論文の中間発表前半
	第24講	中間発表(2)	卒業論文の中間発表後半
	第25講	論文紹介後半(5)	中間発表を踏まえた論文の収集と紹介とテーマの確認
	第26講	論文紹介後半(6)	中間発表を踏まえた論文の収集と紹介と資料の確認
	第27講	論文紹介後半(7)	中間発表を踏まえた論文の収集と紹介と形式の確認
	第28講	卒業論文制作(1)	卒業論文の仮提出
	第29講	卒業論文制作(2)	仮提出した論文を共同で検討・修正
	第30講	卒業論文制作(3)	卒業論文の本提出
指導方法	前期はテキストの一部をまとめ発表するという輪読の形式の授業を中心に、卒業論文のテーマの設定ならびに関連情報収集のための指導を行います。後期は書評や論文の紹介などの発表を中心に、議論・情報収集・論文作成を行います。		
事前学習	発表の準備あるいはテキスト・論文の該当箇所を確認し、議論できるように情報収集など準備をしておいてください(1時間程度)。		
事後学習	原則、授業終了後、次回授業開始時までにはコメントペーパーを提出してもらいます。その回の授業の復習ならびに情報集を行い、コメントペーパーを作成してください(1時間程度)。		
成績評価方法	平常点(コメントペーパー・書評の提出・授業態度) 50% 卒業論文 50%		
テキスト	参考書籍を中心に、授業内で相談の上決定する。		
参考書籍	一川誠(2019)『ヒューマンエラーの心理学』ちくま新書、石田敏郎(2013)『交通事故学』新潮新書、橋本和也(2011)『観光経験の人類学』世界思想社、森貴史(2023)『旅行の世界史』星海新書		
特記事項			

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
交通文化論ゼミ		交通と文化・生活の関係を研究する	濱 雄亮	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	近代史・生活史・現地調査・交通と文化		
ディプロマポリシーとの対応		3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力をを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	鉄道や各種の交通機関は、様々な形で人々の生活に変化をもたらしましたし、今ももたらし続けています。交通と文化・生活の関係のあり方も、常に変化しています。こうした変化や現状を、各自が収集した具体的なデータに基づいて丁寧に分析することで、鉄道・交通と生活の関係・変化に関するより良い論文作成を行います。現状については、現地調査を推奨します。				
到達目標	交通と文化・生活の関係やその変化を理解するために必要となるデータを見極めて収集することや現地調査ができること、収集したデータの分析と書籍などから得た知見に基づいて仮説が立てられること、仮説を教員・他の学生に対して説明できること、教員・他の学生からの質問・助言に基づいて仮説をよりよいものにしていけることを目指します。				
講義内容	前期は主に鉄道を中心とした交通と文化・生活の影響関係についての書籍・論文や現地調査のための文献の「輪読」を行います。また、情報検索方法をはじめとした技法の習得のための講義や実習を行います。後期は主に卒業論文作成指導と「発表」を行います。それを通して文章表現能力とプレゼンテーション能力を身につけるための指導を行います。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	前期オリエンテーション	前期・通年の流れの説明、各自の興味の発表		
	第2講	文献輪読と議論(1)	交通と文化の関係についての文献を読む		
	第3講	文献輪読と議論(2)	交通と生活の関係についての文献を読む		
	第4講	文献輪読と議論(3)	現地調査の方法についての文献を読む		
	第5講	文献輪読と議論(4)	現地調査に基づいた文献読む		
	第6講	文献輪読と議論(5)	2021年度学生論文集を読む		
	第7講	文献輪読と議論(6)	2022年度学生論文集を読む		
	第8講	情報検索の方法	自分の関心に沿った文献・ウェブサイトの検索方法の講義		
	第9講	情報検索の実習	自分の関心に沿った文献・ウェブサイトの検索方法の実習		
	第10講	社史の輪読と議論	社史の探し方と読み方の講義と社史を読む		
	第11講	自治体史の輪読と議論	自治体史の探し方と読み方の講義と自治体史を読む		
	第12講	合宿地の歴史と現状(1)	合宿地の歴史を社史・自治体史に基づいて把握する		
	第13講	合宿地の歴史と現状(2)	合宿地の現状を文献・ウェブサイトに基づいて把握する		
	第14講	卒業論文構想発表と議論(1)	卒業論文の対象事例の発表		
第15講	卒業論文構想発表と議論(2)	夏休み中の卒業論文の課題を明確にする			

	第16講	後期オリエンテーション	後期の流れの説明、夏休み中の進捗を報告する
	第17講	夏休み中の成果報告	夏休み中の進捗を報告する
	第18講	論文作成指導(1)	序論における問いの設定方法について
	第19講	論文執筆状況報告と議論(1)	序論における問いを立てる
	第20講	論文作成指導(2)	先行研究の検討方法について
	第21講	論文執筆状況報告と議論(2)	先行研究を検討する
	第22講	論文作成指導(3)	本論における現地調査データの提示方法について
	第23講	論文執筆状況報告と議論(3)	本論における現地調査データを提示する
	第24講	論文作成指導(4)	本論における分析の提示方法について
	第25講	論文執筆状況報告と議論(4)	本論における分析を提示する
	第26講	論文中間報告会(1)	論文の全体像の発表（前半の学生）
	第27講	論文中間報告会(2)	論文の全体像の発表（後半の学生）
	第28講	論文作成指導(5)	形式・書式の整え方について
	第29講	論文執筆状況報告と議論(5)	形式・書式を整える
	第30講	卒業論文発表会	卒業論文の問いと結論を発表する
指導方法	前期は文献の「輪読」、後期は卒業論文作成指導と「発表」が中心です。「輪読」とは、本の一部や論文を、指定された学生が要約して紙と口頭で報告することです。「発表」は、その時点までの卒業論文の執筆状況を報告して課題を明確にするものです。後期の途中ではその時点での卒業論文の全文を複数回教員に提出させます。コメントを入れて返却しますので執筆に生かしてください。		
事前学習	発表の準備・卒業論文執筆のための資料収集や執筆を行ってください。1時間程度の学習時間が目安です。		
事後学習	授業中に教員・他のゼミ員から指摘された内容や自ら気づいた疑問に関する資料収集・情報収集を行ってください。1時間程度の学習時間が目安です。		
成績評価方法	平常点（発表・発言・卒業論文の途中での提出状況）：40%、卒業論文：60%。		
テキスト	用いません。紙もしくはpdfの資料を配付します。		
参考書籍	老川慶喜『日本鉄道史』幕末・明治篇、大正・昭和戦前篇、昭和戦後・平成篇、中央公論新社、2014-19年。今和次郎・藤森照信『考現学入門』筑摩書房、1987年。菅原和孝〔編〕『フィールドワークへの挑戦―“実践”人類学入門』世界思想社、2006年など。		
特記事項	「合宿」は、状況次第では泊りではなく日帰りの旅行とする。		